

【初期対応】 自傷

初診までの期間、自傷を避けるため以下のことを、かかりつけ動物病院と相談しながら実施してください。このパンフレットの内容で対応できない場合は、かかりつけ動物病院を通して個別に当院までご相談ください。

■ きっかけになることを避ける

自傷のきっかけがわかっている時は、それを避けてください。

避けられない場合は、できるだけ興奮させないように心がけてください。例えば、人との関わりをきっかけに自傷が始まる場合は、できるだけ関わらないようにしてください。食事のときに自傷が始まる場合は、食事の準備を見えないところで行う、動物の目の前で皿や食べ残しを片づけないなどで自傷を軽減できることがあります。散歩の前後で自傷が始まる場合は、散歩の準備を見せない、さっと出かける、散歩ルートを静かな道にする、足拭きなど嫌がることを避ける、などで軽減できることがあります。

きっかけが分からないときは、刺激を避け、できるだけ静かに生活させてください。

■ 自傷しないよう、防御・保護する

エリザベスカラーを装着させるか、あるいは患部を洋服、包帯で保護しましょう。ただしこれらの用品は動物の暮らしや日常動作を妨害することがあり、そのストレスから逆に自傷が悪化することがあります。装着後は動物が日常動作をきちんと行えているかよく観察してください。エリザベスカラーは柔らかい素材を選ぶと良いでしょう。

■ 薬物療法を検討する

防御・保護対策をとっても傷を防ぐことができないときは、一時的に使用できる抗不安薬や催眠・鎮静作用のある薬物のかかりつけ動物病院と相談してください。

■ 自傷が起きたとき・起きそうになったときの対策

止めさせようとして身体を抑える、叱るなどすると、家族が攻撃を受けてしまったり、自傷を逆に悪化させてしまったりすることがあります。中断させなくても自然と止む場合は関心を払わず止むのを待ちましょう。中断させないと自傷してしまう場合は、怖がらせない程度の音で注意を引いたり、好物を与えたりして止めさせましょう。家族は落ち着いて対応することを心がけてください。傷ができてしまった場合は、かかりつけ動物病院で適切に治療してください。